

第45回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会 【今大会レギュレーション】(案)

コメントの追加 [小原1]: 44回に変更しました

1 大会運営 本大会の運営は、(公社)日本ホッケー協会競技運営規定ならびに第45回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会実施要項により運営します。

コメントの追加 [小原2]: 44回に変更しました

2 競技規則 (公社)日本ホッケー協会2022年度6人制ホッケー競技規則によります。

コメントの追加 [小原3]: 2022に変更

3 競技時間 試合時間は、前半10分・後半10分とし、前後半の間に4分間の休憩をおきます。
熱中症対策として、前半、後半の5分経過時に1分間の給水タイムを取ることもあります。

4 競技方法

(1) 男子の部

- ・予選リーグを行い、各グループ第1位、第2位による決勝トーナメントを行います。
- ・第3位、第4位によるフレンドリーリーグを行い、上位1チームによるフレンドリートーナメントを行います。

参加申込チーム数により検討

(2) 女子の部

- ・予選リーグを行い、各グループ第1位、第2位及びa・bグループ第3位による決勝トーナメントを行います。
- ・a・bグループ4位及びc～gグループ3位によるフレンドリーリーグを行い、上位2チームによるフレンドリートーナメントを行います。

(3) 延長戦は行いません。

(4) 決勝トーナメントにおいて、規定の時間内に勝敗を決しないときは、「6」に定めるシュートアウト戦を行い、勝敗を決します。(SO戦は試合終了後5分以内に実施します)

コメントの追加 [小原4]: 今年度の競技運営規程の改正で5分以内に変更になっています。以内という表現ですし、規程と合わせておいてはいかがでしょうか

5 リーグ方式での順位決定方法

- (1) リーグ戦終了時に獲得したポイント数が最も多いチームから順に上位とします。ポイント数は、勝者に3ポイント、引き分けた場合は両者に1ポイント、敗者に0ポイントをそれぞれ与えます。
- (2) ポイント数が同じ場合は、リーグ終了後、「6」に定めるシュートアウト戦により順位を決定します。なお、同位チームが3チームの場合のシュートアウト戦は、同一チームが連勝したとき、そのチームを1位とします。1位のチームが4チームの場合のシュートアウト戦は、トーナメント方式で実施し、順位を決定します。そのトーナメントの組み合わせは抽選とします。

6 シュートアウト戦(SO戦)

- (1) 両チームの監督は、自チーム内よりレッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた出場登録済みの選手の中から3名の選手(シューター)と1名のゴールキーパーを指名します。
- (2) 両チームの主将によりトスを行い、先攻・後攻を決めます。その後両チーム3名ずつのシューターにより交互に攻防を1巡行い(計6本)、得点数の多いチームを勝者とします。
- (3) (2)の方法によって勝敗の決しないときは、「サドン・デス方式」、すなわち両チームが同数のシュートを行った中で最初にリードしたチームを勝者とする方式により、再シュートアウト戦を行います。この時は、最初先攻のチームが後攻となり、選手はプレー不可能な者を除き各チームは最初と同じ選手で行います。ただし、順序は変更られません。

7 試合の再開と追試合

- (1) 中断した試合の再開は、中断した時の得点で残り時間のみ試合を行います。
- (2) 中断した試合の再開において、試合の期日・競技場・審判員等は、これを変更する

場合があります。

8 チームベンチ

チームベンチには、プログラムに記載された者、同じ種別の団員および救護員2名以外は入ることができません。学校関係者等がベンチに入りたい場合はTDの許可を受けて下さい。

9 フィールドへの立ち入り

試合中、選手にケガ等が起こった場合は、手当てをする者および監督・コーチどちらか1名が、当該審判員の許可を得てフィールド内に入り、手当てを行うことができます。(この際コーチングはできません)

10 今年度のルール変更およびスポーツ少年団大会におけるルール確認・配慮事項

＝2019 ルール変更《再確認》＝

- (1) サークル内にある防具により、おそらく入っていた得点が防がれた場合→PSとなります。
- (2) サークル内における守備側のFHは、従来通り反則地点のサークルトップ(12m地点)に加え、サークル内のどの場所から再開することも可能となりました。
- (3) サークル4m以内での攻撃側FHの場合、FHが即座に行われない場合はサークル内であっても4m離れなければなりません。(常に4m離れようとする指導を奨励)
- (4) PG終了の条件から「サークル外に2回出る」の要件を削除します。
- (5) PGにおいて攻撃側のフライングは、罰則としてパッサーがセンターラインに戻されます。
- (6) PG終了直後に速やかに行われる守備側FHでは、防具を外さずにパスを出せます。(ただし、パスの1プレーのみが許されますが、ドリブルすることは許されません。)

＝スポ少配慮事項＝

- (1) ハイスティックに関しては、危険防止のため、従来通り禁止とします。
- (2) 振りかぶってのリバースシュートは禁止とします。
- (3) イエローカードの退場時間は2分以上、グリーンカードは警告とします。

11 確認事項

- (1) 選手はシャツ(ブラウス)裾を常にきちっと処理し、すね当てを必ず着用し、ストッキングをひざ下まであげて履いて下さい。(ひざをストッキングで隠してはいけません)
- (2) キャプテンは、キャプテンマークをつけて下さい。
- (3) ゴールキーパーは、装具を完全に着用し、アンダーパットもチームの責任で装着してください。
- (4) 試合開始15分前にリングパスおよび服装・装具の点検を実施します。
- (5) スターティングリストは試合開始30分前までに大会本部に提出下さい。
←ペーパーによる提出
- (6) チームベンチは、「試合日程」表の左側チームが赤色のリボンのついたベンチを使用します。
- (7) ペナルティコーナーの保護具は試合開始前にTOに使用確認して下さい。
- (8) 応援者は、競技場内には一切入れません。(監督から応援者に事前に説明して下さい)
- (9) 全試合とも「ポイントスパイク」の使用は認めません。
- (10) 選手が負傷により出血した場合、頭・顔・心臓付近にボールが当たった場合、審判員が負傷の状況を確認し、退場を命じられたときは直ちに退場します。止血処理を傷の手当が完了するまでは、再出場はできません。(2分以上の安静が必要です。)
- (11) 「負傷・事故報告書」の提出を課せられたものは、医師による治療後、負傷事故報告書を提出し、TOまたはTDによる本人の健康確認のうえ、次試合の出場を認めます。負傷事故発生後、試合のないチームは、負傷事故報告書を大会事務局に郵送して下さい。
- (12) 試合開始時間に6名そろわない場合。または試合中に退場・怪我等により、1チームの人数が3名以下になったときは、その試合を没収試合とし、相手チームの不戦勝とします。
- (13) 乱暴なプレーや審判員に対する不服等、スポーツマンらしくない行為は戒めます。(監督・応援団についても同じです)
- (14) 全国スポーツ少年団ホッケー交流大会において、抗議制度はありません。

- (15) 競技場コートの広さは、長さ55m・幅30mです。
- (16) 選手は活動時、帽子を着用ください。(なお、試合中の帽子着用は奨励とします。)
- (17) 2021年4月20日付「マウスピース（ガード）の着用に関する規程の変更」通知において、「試合中は常にマウスピースを着用しなければならない。ただし、ゴールキーパーは、着用を推奨する。」と定められましたが、スポーツ少年団、マスターズに限っては、この適用を免除し、「装着を強く推奨する。」と示されました。マウスピースは、外部からの顎と口まわり、歯への衝撃をやわらげる効果があるほか、脳しんとう予防にも効果があります。スポーツ少年団の適用除外は、成長期であり着用が困難な場合が多いと想定されることから「強く推奨」と緩和されたものですが、けが防止等に有効なものですので、マウスピースの装着について、積極的にご検討ください。なお、本大会での装着の有無についての確認はいたしません。
- (17) その他、本規程に定めのない事項、または熱中症が心配される異常気候や食中毒等不測の事態が発生した場合は、TDの指示に従って下さい。
- なお、競技運営において上記の事態が心配される際には、TDはスポーツ少年団部会と協議し選手の健康・安全を最優先した措置を講じます。